

おしおき

# ゴシヨクネン

魔性年



くらわしてやらねばならんッ  
然るべき報いをッ!



## \*はじめに\*

世界を滅ぼしかけた柊恵一は

マリーランド最高裁判決により罰を受けることになりました。

**被害者全員に対し性的奉仕の刑です。**

男性にもご奉仕できるよう

大臣の計らい（趣味）でシヨタ化しましたが

記憶まで少年の頃に戻してしまいました。

なんの事やらわからない恵一くんは

未来の自分の罪で裁かれることになりましたが

気にせずお楽しみ下さい。

追伸

テレビを見るときは部屋を明るくして、はなれてみて下さい。



いらっしやう♪

歌ちゃん

琴ちゃん

奏ちゃん

学校から

突然とばされて来たけど

マイメロ

んじは………?



ちよことナニ

この男の子って……

ウんっ…まぢか  
柎………？

マイメモ説明苦手だから  
この『はじめに』って紙を  
読んでね♡

歌「性的奉仕って……そんなムリよマイメロ

明日からどんな顔して先輩と会えばいいのよ」

悪魔「大丈夫。

ハリネズミ君がコロリと忘れさせてくれるから」

奏「じゃあこんなの意味ないじゃない」

悪魔「うん〜と……目的は先輩さんが歌ちゃん達に

無意識の深層心理的に

なんとなく逆らえないようにする為だって


大臣さんが言ってた」

奏「こ、こわあ……」

ご奉仕は皆が  
オーガズムといゆのを  
向かえたら終わりって  
大臣さんが言ってた

よしーじゃあ  
このチビ柎のためにも  
さっさと  
終わらせてあげようよ

か、奏姉ええ……？



それじゃあ  
捕縛植物さん  
先輩さんのお洋服も  
脱がせてね♡

先輩さんは歌ちゃん達に  
ご奉仕してね  
おねがい♡



ハア？

誰がそんなコトするもんか

ボクは関係ないと言ってるだろ

何回も言わせるな





XOIT Y E HA -



びんびんびんびんびんびんびんびんびんびん



ウメ  
ウウウ

くうう  
わかったよ……  
何でもしてやるよ……

歌「ちょ、ちょっと！マイメモオ！！」

悪魔「ゴメンね歌ちゃん。くれぐれも容赦するな  
執行人の勤めを果たせってマイメモ  
大臣さんに言われてるの」（\*事実確認無し）

歌「だからってやりすぎよお！」

悪魔「痛みや傷はスグ消えるって大臣さんがいってたよ。  
でも電撃を受ける度に身体が敏感になってゆくから  
先輩さん気おつけてネ。ヒヒッ」

さあ終クン

舐めなさいよ

ホラ

グニ  
グニ

.....  
イヤだ



先輩さん

ゆっぴろトキかないと

「うめ」

「うめ」





キョウキヤキヤ







……っかったよ……

な……舐めれば

いいんだろ

シッポクク

ハハ

ハハ

ハハ

うわっ最高

ほんと

なにをやらせても  
上手くこなすわね

ちゅあし……ちゅあし……  
んん……

もお  
イクツ  
くっ……!





ぬきん

わあ面白そう！  
こぎ、琴の番ね

やっ？

ダメよ！琴

やめなさいって！

だ、だって琴

この前この人に

電撃ビリビリイって

されたモン！

そうよ歌

この歳から

根性たたき治したほうが

この子の為にもなるんだから



うわあ

ドキッ  
ドキッ  
ドキッ

ドキッ  
ドキッ

ドキッ  
ドキッ

大丈夫よ

べつに噛み付きやしないから

アハハ  
ホントだ  
くすぐっくて  
変な感じ

はあ

はあ

イヒヒ  
舐める舐める  
子犬みたいに  
もっと舐めてよ

はあ

はあ

奏「そうだ！二人とも

このさいだから初体験もしちゃいなさいよ」

歌「おお、お姉ちゃん？」

奏「下手な男とやる前にまたとない予行練習よ

記憶を消されても深層心理的に優位にたてるじゃない」

琴「ウン！琴、初体験やってみる」

歌「琴おお！？」

悪魔「琴ちゃんガンバッテね♡」





でも

ちよっと怖いから  
自分でいれるね……

いつ  
痛あ

ドキッ  
ドキッ

ドキッ  
ドキッ

はあ

はあ

はあ

琴ちゃん

この部屋にいると  
性感度が増すって  
大臣さんが……

もうー！

マイメロまで性感度とか  
いわないでよ

琴、大丈夫よ  
そのままゆっくろ  
腰をおろして

ぬんっ



うわわあああ

ナニこれ

こ、腰が

止まんないよー！

くるよー！なんか

来るよ！くるよ！……

あはっ

すあ

すあ

カリ

カリ



はあ

はあ

はあ

んはあ  
これ……い……  
いったのかな……？

やったね琴  
アハハハハ  
柊も  
いっちやっつんよ

フッ  
フッ

フッ  
フッ

ウ

ウ

フッ  
フッ



奏「さあ次は歌の番よ」

歌「で、できないよ、こんな……」

琴「あー！なんかズルいよ歌姉え

自分ばっかりイイ娘ぶって」

奏「アンタそういうの同性に嫌われるよ」

悪魔「歌ちゃん後の人がつかえてるから

はやくしてネ♡」

歌「マ、マイメモ～……。……わかったわよ」

奏「ホラッ柎、いつまで惚けてんの。

さっさにご奉仕しな」



ドキッ  
ドキッ

ドキッ  
ドキッ

じゃ、じゃあ  
あの  
お願いします

先輩……  
後ろからなら  
恥ずかしいとか  
その……少しは  
気が楽ですよね？

お前は  
舐めなくて  
いいのか？

カ  
カ  
カ

いいですー！

いいです！

な、舐めなくて

いいですう

ドキッ  
ドキッ

ドキッ  
ドキッ





うああああ  
は……  
は……  
は……

ドキッ  
ドキッ

ドキッ  
ドキッ

カッ

せっ……先輩はげしおきょー！

激し過ぎたでしょう

アキマ

アキマ

アキマ……アキマ

はっ

早くしてよー！

アキマ

アキマ……アキマ

アキマ

アキマ……アキマ

アキマ……アキマ

アキマ

アキマ

アキマ

アキマ

アキマ







ふあー!

んふう  
あふ……  
んあ

はあ

はあ

ドグ

ドグ  
ドグ  
ドグ

奏「じゃあね柊がんばってえ〜」

琴「バイバ〜イ」

歌「先輩がんばって下さい。

マイメロあんまり酷いコトしないでね」

悪魔「じゃあ先輩さん、ちょっと待っててね。

次の人呼んでくるから♡」

柊「次の人って、あと何人いるんだ？」


悪魔「うんとネ、いちおう夢ヶ丘の町の皆だけだヨ」

柊「だから何人いるんだ？」

悪魔「えっと歌ちゃんでしょ、琴ちゃんでしょ、奏ちゃんでしょ、

駆クンでしょ、パパさんでしょ、あと…えっと歌ちゃんでしょ」

柊「もういい。さっさと次を呼んでこい」



ええ〜いやあ

お楽しみ下さい

っていわれても……

ホラッだせよ  
ちよちよちよ

え?え?え?!

ちよちよ

ちよちよマイメロ

なになになに?!

ちよちよ



気持ちいいだろ？

気持ちよくないのか

なんだよ！しゃぶれいうのか？  
なんでもいいから  
さっさとだせよ！

いやマイメロ

ないない！

パパこれはないよ

無理だって！



悪魔「パパさんムリなの？」

大臣さんは男の人はコレでクリアーできるっていったた」

パパ「いや、その大臣さんはそうかもしれないけど

パパにこのての趣味はないよ。娘も三人つくってるしさ」

悪魔「え？歌ちゃん達はパパさんが作ったの？」

パパ「まあ一人で作ったわけじゃなくて

ママとの共同作業だよ」

悪魔「あ、じゃあママさんとならいけるのね？」

パパ「ん？」

悪魔「メロディ～マ～チ♪」



ん？



うわあ

ママだ！

ママー！ママー！ママー！ママー！

おちん

おちん

ん！

よ、よせ

抱きつくな！



柊「やめ……やめろっ！ 離れろ！ 気持ち悪い」

パパ「マ……ママ？」

柊「**ボクはお前のママじゃないっ！**」

パパ「マイメロお～死んだママはこんなこと言わないよ～」

悪魔「先輩さん、ママさんになりきってね、おねがい♡」

柊「ボ……ボクに女のマネまでしろっていうのか！」

パパ「マイメロお～死んだママは

こんな怖い顔して怒鳴ったりしないよお～」



先輩さん

歌ちゃんのママみたいに  
演技しないと

「ダ」

「じゅ」





ママ

大丈夫かい？

優しく慰めてあげるからね

あげるからね！

ママ  
ウウウ

きゅん  
きゅん

う……

嬉しいパパ

な、慰めてください

い……痛っ  
パ……パパもっと優しくして  
ください

いっよらママ  
いやあ  
久しぶりだねえ





出すよムム  
膣内にだすよ  
だすよー！

ムムムム  
ムムムム

タフン

タフン

ムム

ムム



パパ「どうだった？良かったかいママ……」

柊「う…うるさい……ボクに触るな！」

パパ「ええ！マ、マイメロお～？」

悪魔「パパさん終わったら帰ってね♡」

パパ「ショボ～ン」

ダッ！

悪魔「あ……先輩さん逃げた」







XOIT Y E N A -



えーと一体  
何が始まるんだ？

あ、スグに始めるから  
駆クンも体操服を  
脱いでね♡

脱いだけど？

じゃあこの  
「はじめに」って  
紙を読んでね♡



な、なんだよコレ？  
もしかして  
歌もやったのか？

ウン。やった♡  
下手な男とやるまえの  
予行練習だって  
琴ちゃんもやったヨ

信じらんね  
オレ帰る



悪魔「あっ待って駆クン」

駆「なんだよ！いいよ！

俺、そんな変態小僧の相手してるヒマねーし」

柊「ボ、ボクだって

好きでこんなことしてるんじゃない！」

悪魔「ホントだよ、先輩さん、奏ちゃんは汚いから

舐めたくないってイヤがってたけど、歌ちゃんるときは

舐めなくてもいいのかってきいたけど、

歌ちゃんはイヤだって言ったから後ろからやったの」

駆「あーもー聞きたくもない！帰る！」

柊「お前がいかないと終わらないんだ！ボクは一刻も早く

このバカバカしい刑罰を終わらせたいだけなんだよ！」

へ〜そうかよ  
おっ勃つてといて  
よ〜っ!!!

こ、これは  
電撃の後遺症で  
身体が勝手に  
反応しはじめるんだ

駆「ヘッヘー♪そうかい」

柊「下らない……」

駆「？」

柊「お前はボクが歌って女とやったから妬いてるんだろ？」

駆「んな……！」

柊「下らない嫉妬してないでさっさとボクを犯せよ！」

駆「あっもう意地でもやんねっ！絶対しねえー」

柊「そうか……わかった。じゃあイカせてやる

マイメロこいつを女にしろ」

悪魔「うん。マイメロ協力する♡メロディ～マ～チ♪」

駆「え？え？」

柊「そいつをひんむけ」






カミ  
ニミ

わっわっ!

ちよっと待て!

マイメロ?



逃げないよう  
捕まえてろ

駆クン  
大人しくしてネ♡  
ヒヒッ

やめろ  
俺こんなの  
イヤだっ！  
イヤだって……！

は、はなせ  
マイメ……うわっ  
凄い力だ！

あっ





バカ  
はいってー  
ホントはさっしゅん

痛い痛い痛い痛い  
痛いってマジでー

動くぞ



やっ……ああん  
ヤバイ  
変な声出る……

んはあ

んぐう

ああっ

んっ

あっ

グンッ グンッ グンッ

あ

あ



悪魔「どう駆くん♡イっちゃった？」

駆「……ふ、ふざけたマネしやがって……」

柊「イったのか？」

駆「こんなんでもイけるわけないだろ！」

悪魔「ありゃ」

柊「イってないのか……」

駆「もう済んだんだろ。元の身体に戻せよ」

柊「マイメロ、戻せ」





なんで  
こうなるんだよ

イアタタタタ  
痛い！やめろってー！

ヒクッ

ヒクッ

動くな  
ボクに身体をあずけてる





わああああああああ

ぐんぐんぐんぐんぐんああああああああ



柊「な……なぜ？」

悪魔「マイメロまたお手伝いしたの。駆くんがイけてよかったネ」

柊「……………ああ。ありがとうマイメロ。これで終わりなんだろう」

悪魔「うん。終わりだよ。マイメロ帰って

歌ちゃん達のお夕飯つくらなきゃいけないから」

柊「……微妙な言い方だな」

悪魔「今日はコレで終わり。あ、明日の分が来ちゃった」

先生「イヤ！柊くん♡幼い頃の柊くんだわ！フェラレ！」

柊「……………マイ……」

悪魔「じゃあ先輩さん、また明日ネ。ヒヒッ」（\*心底嬉しそう）

おしまい♪



































































































































